

Pole Pole ケニア通信

2025.3



JICA 海外協力隊(環境教育) 和田温子

こんにちは！今回は【ケニアの交通手段】について紹介します。ケニアの主な交通手段はマタツとボダボダです。それ以外にも、西部地域や沿岸地域に行くのに飛行機や長距離バスがあり、さらには SGR と呼ばれる高速鉄道がナイロビと港湾都市モンバサを結んでいます。ただし、飛行機や鉄道は一般的ではなく、車移動が人々の生活の足です。また、ケニアで走っている車の90%以上は日本の中古車で、走行車線も日本と同じ左側通行のため、車に乗っているとまるで日本にいるかのように感じる場合があります。

乗り合いバス、マタツ

ケニアを移動するための主な交通手段は、「マタツ」と呼ばれる乗り合いバスです。ほとんどが14人乗りのミニバンです。民間会社がそれぞれ運営しており、近距離から長距離まで様々なルートを走るバスで、出発地と目的地の間で自由に乗り降りができます。日本と大きく異なるのは、時刻表が存在しないことです。マタツがたくさん集まり、出発地点である駅のような場所を「ステージ」と言うのですが、ここでは乗客が満員になるまで出発しません。そのため、人が埋まるまで1時間以上も待つこともあれば、タイミングよくすぐ出発することもあり、時間は全く読めません。さらに途中で人の乗り降りする回数が多ければ、さらに時間がかかります。

マタツ会社にとっては、乗客が多ければ多いほど儲かるので、14人乗りの車だったとしてもそれ以上の人を乗せることがあり、車内はまるで満員電車のようにになります。当然、座席は足りないため、板がどこからともなく現れ、座席との間に渡して、スペースを生み出します。一度、30人近くが車から出てきたのを見たこともあります。もちろん、ケニア人もこれが快適だとは考えていませんが、広いケニアを移動するためにマタツは重要な手段であり、多少窮屈な思いをしても乗車したいという気持ちがあります。ただし、長距離を直行で走るマタツについては、基本的に座席以上の定員は乗せない傾向にあります。なお、マタツは車の上にも、たくさんの荷物をひもで縛って乗せることができます。

目的地はそれぞれでも、マタツはたくさん走っているので「ちょっとそこまで乗せて欲しい」という時は、手を挙げて合図すると停まってくれます。金額も安く、私の家からタウンまでの約2kmは20円です。約125km離れたナイロビまでは500円で行くことができ、重要な交通手段になっています。

ケニアでは、時間通りに何かが始まることは少なく、会議やイベントは早くても2時間ほど遅れてスタートします。それにより怒る人も戸惑う人もいません。どの人も「ケニアタイムだから」と、とても寛容です。私は最初の頃はなかなかこの文化に慣れることができませんでした。しかし、マタツのような交通手段がメインであるケニアでは、時間通りに何かをおこなうことは当たり前ではなく、時間に寛容になるのは当然なのだとは今は理解できます。これはケニアだけでなく、アフリカの文化と言えるかも知れません。



- ① マタツが集まるステージ。行き先は車の上の看板で確認する。コンダクターの客引きも激しい。行き先によっては、途中でマタツの乗り換えも必要になる
- ② 近距離を走るマタツの座席はボロボロ。長距離はもう少しきれいであることが多い
- ③ マタツは乗客の荷物をたくさん積んで走ることが多い。また、ドライバーごとに車体は個性的に装飾され、内部もスクリーンやスピーカーが取り付けられている
- ④ 座席との間に渡す板。乗客が増えてくると、コンダクターが設置する。乗り心地は安定しているが、近距離移動向き

バイクタクシーとトゥクトゥク

マタツと同じくらい一般的な手段が「ボダボダ」と呼ばれる、バイクタクシーです。ルートが決まっているマタツと違い、ボダボダは小回りが利き、とても便利です。道にはたくさんのボダボダが走っています。私の同僚たちも馴染みのボダボダドライバーがそれぞれいて、通勤手段として利用しています。自分の好きなように移動できる反面、金額はマタツよりも割高です。雨の日は屋根をつけて走り、濡れない工夫がされています。JICA ボランティアは安全上の理由から乗るのを禁止されているため、私は乗ったことはありません。ただし、かさばる物や重たい物を運ぶことも彼らは得意なので、家具やガスシリンダーを家に届けてもらう際にお世話になりました。

私の住むエンブタウンでは、トゥクトゥクも走っています。トゥクトゥクが走る範囲はそんなに広くなく、主にケニアのタウンでのみ見かけます。マタツ同様に金額も安く、道で合図すると乗せてくれます。車体が小さいため、4～5人ほどしか乗ることができず、すぐに満席になってしまい、マタツよりは捕まえにくいかもしれません。おもちゃの車のような見た目はとても可愛らしいです。

ナイロビでの移動は配車アプリで

首都のナイロビでも、人々はマタツとボダボダを主に使用しますが、それに加えて配車アプリを使って移動することもできます。主要なアプリはUberですが、他にもいくつかあります。安全上の理由で、JICA ボランティアはナイロビでは徒歩禁止となっているため、どこに行くのも配車アプリを利用します。もちろん割高ではありますが、日本と比べると安く、複数人で乗るとマタツくらいの金額で乗ることができます。配車アプリはナイロビの他、ケニアの主要な大都市では使用できます。私の任地では使用できないため、知り合いの個人タクシーをたまに利用しています。

ナイロビは時間帯によって交通渋滞がひどく、まったく動かないことがあります。基本的に道路に車線はなく、信号もあまりありません。信号の代わりに警察官が道路の真ん中によく立っていて、交通量をコントロールしています。どの車も早く進みたいために無理な割り込みをしたり、渋滞の合間をボダボダがすれすれに通過することがあります。日本と比べると危険な場面がたくさんありますが、あまり事故を見かけないのは、それだけドライバーの技術力が高いのではと個人的に思っています。また、窓を開けたままにしておくと、そこから物を盗られることもあるため、乗客側も気を抜けません。

